

様式【学校評価資料】

併設型小・中学校五つ星学園（維新小学校）

学校経営目標	具体的計画	令和4年度の達成基準 ※基準は、今年度維新小 昨年度結果は、維新小(児童・保護者・教職員) 昨年度地域は、昭和中学校区	自己評価（中間）			自己評価（最終）			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況(R3.12結果)	評価	改善策	
1 あいさつなどの基本的な生活習慣の確立と 自己表現力・思いやりの心の育成	① 朝の挨拶運動や外部講師の講話、学校行事、授業等における挨拶や発表の指導を徹底する。	○「友達や家族に進んで挨拶している」と回答する児童が90%以上（昨年度結果は88%） 「地域の人に進んで挨拶している」と回答する児童が90%以上（昨年度結果は94%）。 ○「友達・家族に進んで自分の思いを伝える」と回答する児童の割合が80%以上（昨年度結果は77%）	○「友達や家族に進んで挨拶をしている」と回答した児童・・・87% ○「地域の人に進んで挨拶をしている」と回答した児童・・・87% ○「友達・家族に進んで自分の思いを伝える」と回答した児童・・・69%	B	・あいさつ週間・・・各教室を回って挨拶をする機会をつくる。 ・品格目標であいさつの月では、週ごとにあいさつのめあてをきめて取り組みを行う。クラスで目標を決めて取り組んだり、個人で目標を決めたりしながら、継続した取り組みを行う。 ・教職員が来校者、地域の方々、児童へと率先してあいさつをするなど手本を示す。	○「友達や家族に進んで挨拶をしている」と回答した児童・・・94%(88%) ○「地域の人に進んで挨拶をしている」と回答した児童・・・75%(94%) ○「友達・家族に進んで自分の思いを伝える」と回答した児童・・・63%(77%)	B	・友だち同士が、気軽に話ができるような学級づくりを目指す。 ・親子の会話を啓発するような働きかけをおこなう。	自己評価・改善策ともに適切である。
	② 早寝・早起き・朝ごはんやメディアコントロールの強化週間、生活習慣チェックカードの取組、保護者啓発等を工夫・改善する。	○「自分は生活習慣が整っている」と回答する児童の割合が70%以上（昨年度結果は65%）。 ○さらにカードで合計得点が8割以上の児童の割合が60%以上。	○「自分は生活習慣が整っている」と回答した児童・・・63% ○さらにカードで合計得点が8割以上の児童の割合・・・52%	C	・メディア利用時間の設定目標が高すぎたり低すぎたりせず、頑張れば達成できる目標となるように事前指導を行う。 ・メディアの基準を家庭に提示し、児童と保護者が一緒に取り組むことができるよう協力をお願いする。合わせて、メディア以外にすること(読書・手伝い・運動など)も啓発する。	○「自分は生活習慣が整っている」と回答した児童・・・75%(65%) ○さらにカードで合計得点が8割以上の児童の割合・・・45%(58%)	B	・早寝、早起き、朝ごはんなどの項目については、ほぼ生活習慣が整っているため、このまま習慣が身に付くように指導していく。 ・今後、家庭学習でタブレットを使用する機会も増えることを考えると、メディアに関する目標設定については、単なる時間だけでは計れないこともあるので見直しも検討していく。 ・「きらきら☆ウィーク」期間中、こまめに児童に声をかけたり、家庭への働きかけをしてきた。アンケート結果をふまえたうえで、保護者とも意見交換をして実効性を高めていきたい。 ・ネットモラルに関する講演会等で保護者にも啓発していく。	・数値が低いことはさみしいが、原因を分析し改善に努めてほしい。
	③ 公開授業を通して、SEL(社会性と情動の学習)等の実行度を上げるとともに、ピア・サポート活動や合同授業・行事、キャリア教育講演会や職業人と語る会、体験入学等を工夫する。	○「自分の将来について考えている」と回答する児童が80%（昨年度結果は76%） ○「自分の将来について考えている」と回答する保護者が70%（昨年度結果は64%） ○次のアセス1項目(各学年最終回)の平均値が前年度以上。 ・非侵害的関係平均値 (R3年度末:4.18) ・友人サポート平均値 (R3年度末:4.04)	○「自分の将来について考えている」と回答した児童・・・69% ○アセス結果 非侵害的関係平均値・・・4.08 友人サポート平均値・・・4.25	B	・縦割り班による清掃活動、休み時間には異学年が交じって一緒に遊ぶなど、普段から交流は出来ている。今後は、学校行事での取組や授業における上学年から下学年へのピア・サポート活動、幼稚園との交流活動を充実させる。 ・少人数であることの弱点を克服するために、昭和小との合同授業や、合同での社会科見学、修学旅行などを通し、多様な人との交流を図る。 ・学級経営を基盤として、だれもが安心して学び、生活できる学校づくりを行う。	○「自分の将来について考えている」と回答した児童・・・63%(76%) ○「自分の将来について考えている」と回答した保護者・・・76%(64%) ○アセス結果 非侵害的関係平均値・・・4.34 (4.18) 友人サポート平均値・・・4.20 (4.04)	B	・学校行事や授業における地域の方との交流活動や、上学年から下学年へのピア・サポート活動、中学生によるピア・サポート活動、幼稚園との交流活動を充実させる。 ・少人数であることの弱点を克服するために、昭和小との合同授業や、合同での社会科見学、修学旅行などを通し、多様な人との交流を図る。 ・アセスの結果だけを見ると昨年度よりも数値が向上しているが、個々の児童に目を向けると個人差が大きい。引き続き、学級経営を基盤として、だれもが安心して学び、生活できる学校づくりを行う。	自己評価・改善策ともに適切である。
2 学習習慣の向上と 学力の確立	④ 小学校では朝学習・昼学習や読み聞かせ、中学校では朝学習やO→Iプロジェクト(帰りの会、週末課題や・自主学習ノート等を活用した家庭学習の指導)を通して、個に応じた補充的学習を工夫・改善する。	○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答する児童が80%以上。 ○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答する保護者が80%以上。 ○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答する教職員が80%以上。	○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答した児童・・・88% ○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答した教職員・・・57%	B	・宿題は毎日きちんと提出させる。提出物等が出されていない場合には、声掛けをしたり理由を確認したりする。 ・学校での学習内容と宿題をリンクさせることで、習ったことを宿題をすることにより定着できるように出し方を工夫する。 ・場合によっては、個に応じて宿題内容や量を調節することにより、意欲を高める。 ・参観日の懇談等で保護者にめやすの学習時間を伝えたり、音読を聞いてもらったりと保護者にも協力をお願いする。	○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答した児童・・・87%(94%) ○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答した保護者・・・76%(94%) ○「家で学年のめやすの時間、学習している」と回答した教職員・・・33%	B	・家庭での学習時間については、児童と教職員との認識の差が大きい。教職員の数値が低いのは何故なのかをはっきりさせることが必要。時間に見合った十分な学習ができていないと認識するのであれば、家庭学習の仕方を指導する必要がある。また、学年に見合った時間よりも早く終わってしまうようならば宿題の量や質について見直すことも必要。	・児童と教職員との認識の差については、子どもへの聞き取りを行う必要があるのではないだろうか。 ・アンケート内容は、学年に見合った時間を問うだけでなく、時間内にいかに学習に向き合ったかを自分自身で問うような項目も必要ではないだろうか。
	⑤ 協同学習と「岡山型学習指導のスタンダード」の実行度を高め、小中教員相互の授業参観・授業研究を進める。	○「授業はわかりやすいと思う」と回答する児童が80%以上（昨年度結果は77%）。 ○「授業はわかりやすいと思う」と回答する保護者が80%以上（昨年度結果は74%）。	○「授業はわかりやすいと思う」と回答した児童・・・81%	B	・授業5を基本としながらも、デジタル教科書やGIGA端末の活用を取り入れながら、教師一人一人が分かりやすい授業実践に取り組む。 ・年数回、お互い自由に授業を見合う週間を設けることで、他の教師の優れた実践を自分の指導に生かせるようにする。	○「授業はわかりやすいと思う」と回答した児童・・・88%(77%) ○「子どもは、授業はわかりやすいと言っている」と回答した保護者・・・89%(74%)	A	・子ども目線に立った授業づくりを目指す。 ・教師の授業力を上げるために、研修を定期的に行う。	自己評価・改善策ともに適切である。
3 地域への愛着と誇りの育成	⑥ 地域に赴き、地域との連携・交流や校園間の交流を深めるとともに、地域防災について考える活動やボランティア活動等を工夫する。	○「地域の行事に参加している」と回答する児童児童が80%以上（昨年度結果は53%）。 ○「子どもは地域の行事に参加している」と回答する保護者が80%以上（昨年度結果は73%）。 ○「連携した防災学習・活動が進められている」と回答する保護者が80%以上（昨年度結果は79%） 地域住民が80%以上（昨年度結果は80%）、教職員が80%以上（昨年度結果は67%）。	○「地域の行事に参加している」と回答した児童・・・88% ○「連携した防災学習・活動が進められている」と回答した教職員・・・63%	B	・地域の方を講師として招き指導を仰いだり一緒に活動したりする機会を増やす。また、校外学習に出かけ学習する際には、機会があれば地域の歴史や地域のよさについて触れる。 ・地域の行事や祭り、児童とを繋ぐハブとして、行事を紹介したりチラシを配布したりと学校も協力をすすめる。 ・隣接する幼稚園との引き渡し訓練を一緒に行ったり、交流中を火災発生を想定しての避難訓練をしたりと、実効性を高める。	○「地域の行事に参加している」と回答した児童・・・94%(53%) ○「子どもは、地域の行事に参加している」と回答した保護者・・・82%(73%) ○「連携した防災学習・活動が進められている」と回答した保護者・・・81%(79%) ○「連携した防災学習・活動が進められている」と回答した地域住民・・・75%(80%) ○「連携した防災学習・活動が進められている」と回答した教職員・・・50%(63%)	B	・学校に地域の方を講師としてお招きしてお話を聞いたり、一緒に活動したりする機会を増やす。また、校外学習に出かけ学習する際にも、現地で地域の地理や歴史などに詳しい方のお話を聞いたり、体験したりする場を設けたりすることで、より深く地域のよさについて学ぶことができるようにする。 ・地域の行事や祭り、児童とを繋ぐハブとして、行事を紹介したりチラシを配布したりと学校も協力をすすめる。 ・来年度、まずは隣接する幼稚園との引き渡し訓練や避難訓練を一緒に行う。	・今年度は幼小で連携した避難訓練ができていなかったため、反省を踏まえて来年度は実施してもらいたい。 ・昔から地域で作られている農作物について学んだり、現在鳥獣被害を多発している現状を知ることにより地域を知るきっかけになったりするのはないだろうか。
	⑦ 地域のよさについて英語で表現する面白さを子どもが味わえるよう、英語特区やインバウンド教育に係る子ども主体的活動を工夫する。	○「昭和・維新地区は、よい所だと思う」と回答する児童が90%以上（昨年度結果は94%）。 ○「英語で人とつながる(話す)のが楽しい。」と回答する児童が80%以上（昨年度結果は82%） ○「学校は小・中一貫教育の取組について情報発信を十分行っている」と回答する保護者が90%以上（昨年度結果は78%）、地域住民が90%以上（昨年度結果は100%）、教職員が90%以上（昨年度結果は100%）。	○「昭和・維新地区は、よい所だと思う」と回答した児童・・・100% ○「英語で人とつながる(話す)のが楽しい」と回答した児童・・・76% ○「学校は小・中一貫教育の取組について情報発信を十分行っている」と回答した教職員・・・88%	A	・学んだ英語を生かし人と交流する機会を増やす。海外校との交流や昭和、昭和中の合同授業など。 ・英語力やコミュニケーション力の自信にもつながるので、英語検定も紹介していく。 ・幼・小・中一貫教育の取組に加え、義務教育学校開校への取組をWEB、たより等でこまめに発信していくことで、保護者・地域の方々の理解、協力がいただけるように努める。	○「昭和・維新地区は、よい所だと思う」と回答した児童・・・94%(94%) ○「英語で人とつながる(話す)のが楽しい」と回答した児童・・・88%(82%) ○「学校は小・中一貫教育の取組について情報発信を十分行っている」と回答した保護者・・・82%(78%) ○「学校は小・中一貫教育の取組について情報発信を十分行っている」と回答した地域住民・・・86%(100%) ○「学校は小・中一貫教育の取組について情報発信を十分行っている」と回答した教職員・・・88%(100%)	A	・英語を生かし人々と交流する機会を計画的に設定し、有用感を実感できるようにする。 ・「昭和・維新地区はよい所だと思う」の評価が高いことがうれしい。 ・具体的にどこがよいのかを問う項目があってもよいのではないだろうか。 ・あいさつについては、日頃から授業支援等で子どもたちとつながりがあるので、声をかけやすい。コロナの関係で公民館行事も以前よりも少なくなっており難しい面もある。 ・不審者対応の面で、知らない人への声かけについて制限される昨今ではあるが、だれにでも元気にあいさつができるようになってほしい。	